

中学生として学んだこと 1年4組 石川ブライアン

私の好きな言葉に「努力した者は、必ず成功するとは限らない、しかし成功している者はみんな努力をしている。」という言葉があります。この言葉は部活動の顧問の先生に教えていただきました。私はこの言葉に出会えたことで何事にも「努力」をしようと思えるようになりました。その一つは体育祭です。小学生の頃は、とにかく結果しか見えていませんでした。しかし、今は結果も大切ですが、そこに至るまでの過程も大切だと思っています。

勝ちたいならば、勝つための練習をしなければならない。言葉でいうのは簡単ですが、実際に行動に移すのはとてもたいへんです。特に私たち4組が力を入れて練習したことは大縄でした。クラス全員が気持ちを一つにし、タイミングを合わせて跳ぶことは簡単なことではありませんでした。練習の途中で何度も意見が分かれてもめることがありました。

しかし、それは全員の「もっとうまくになりたい」「勝ちたいんだ」という気持ちの表れだったと思います。結局私たち4組が出した答えは「とにかく練習するしかない」ということでした。跳ぶことが上手な人が苦手な人の近くで跳ぶタイミングの声をかけるようにしました。結果として練習の段階では23回跳ぶことができました。最初の段階と比べ成長したように感じ、声を上げて喜びました。私は本番が待ち遠しくてたまりませんでした。体育祭の後半、私たち的大縄の番になりました。とても緊張しましたが、不思議と早く始まってほしいという感情が強かったです。「せーの」の合図で4組は47回連続で跳ぶことができました。練習のときよりもはるかに多く跳ぶことができたことに感動して、涙を流す仲間もいました。

最終的に私たち4組は学年優勝することができました。今では、たくさん練習し、努力をしてきたから結果がついてきたんだと確信しています。私がそう思えるようになったのは、「努力の大切さ」を教えてくださった先生方のおかげだと思っています。そして共に戦った4組の仲間がいてくれたからです。この先もこの青学年の仲間と努力し合い、一緒に成長していきたいと思っています。

1 年 7 組 水野 桐人

僕が 2 学期にがんばったことは、野外活動、飯森祭、部活動の三つです。

野外活動では、スローガンや目標を意識し、自分がすべき役割を達成することができました。僕はキャンプファイヤー実行委員長でした。メンバー全員で声をかけ合って協力し、当日は大成功でした。学年全体が協力し合えたからこそ、素晴らしい野外活動になったと思います。野外活動で黄色学年が日本一に、また一歩近づけたと思います。

二つ目の飯森祭は、青組の先輩方やクラスメートと協力し、体育祭で優勝することができました。青組は、応援練習や入場・退場の練習が厳しく、正直とても大変でした。でも、先輩方が前向きな言葉をかけてくれて、苦しい時ががんばれました。また、大きな声で応援してチームを引っ張っていました。優勝が決まった後のスピーチで、団長さんが、「大縄の時に、これからもチーム全員で肩を組んで歌って応援してほしい。」と言っていたのはとても印象に残っています。

三つ目の部活動は、練習を工夫し、成長できたことです。僕は卓球部です。うまくなりたくて、自分なりにがんばっていたのですが、なかなか成長を感じず、悩んでいました。そこで、2 学期からは、「難しい技より基礎を身につけること」を目標として、これを達成するために二つのことを実践しました。一つは、基礎練習の時、一球一球を正確に打ち返すという意識を高くもつことです。もう一つは、フォームを良くすることです。二つのことを実践したことで、他中の強い 1 年生に勝つことができ、手ごたえを感じるようになりました。努力した成果が出て、とてもうれしかったです。

僕は、この 2 学期で、たくさんの経験を通して、とても成長できたと思います。3 学期は、1 年生の総まとめ、2 年生になる準備期間なので、少しでも成長できるように一歩ずつ、そして全力で前進していきたいです。